

宮川総合水系環境整備事業 説明資料

平成22年7月28日

国土交通省 中部地方整備局
三重河川国道事務所

目 次

1 . 事業の概要	
1) 流域の概要	1
2) 事業の目的	2
3) 計画内容	3
2 . 費用対効果分析	4
3 . 評価の視点	
3.1 宮川勢田川水辺整備（再評価）	
1) 事業の必要性等に関する視点	6
（1）事業を巡る社会経済情勢等の変化	6
（2）事業の投資効果	7
（3）事業の進捗状況	8
2) 事業の進捗の見込みの視点	9
3) コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	10
3.2 勢田川水環境整備（事後評価に準ずるフォローアップ）	
1) 事業の効果の発現状況	11
2) 社会経済情勢等の変化	12
3) 今後の事業評価の必要性	13
4) 改善措置の必要性	13
5) 同種事業の計画・調査のあり方及び事業評価手法の見直しの必要性	13
4 . 県への意見聴取結果	14
5 . 対応方針（原案）	15

1. 事業の概要

1) 流域の概要

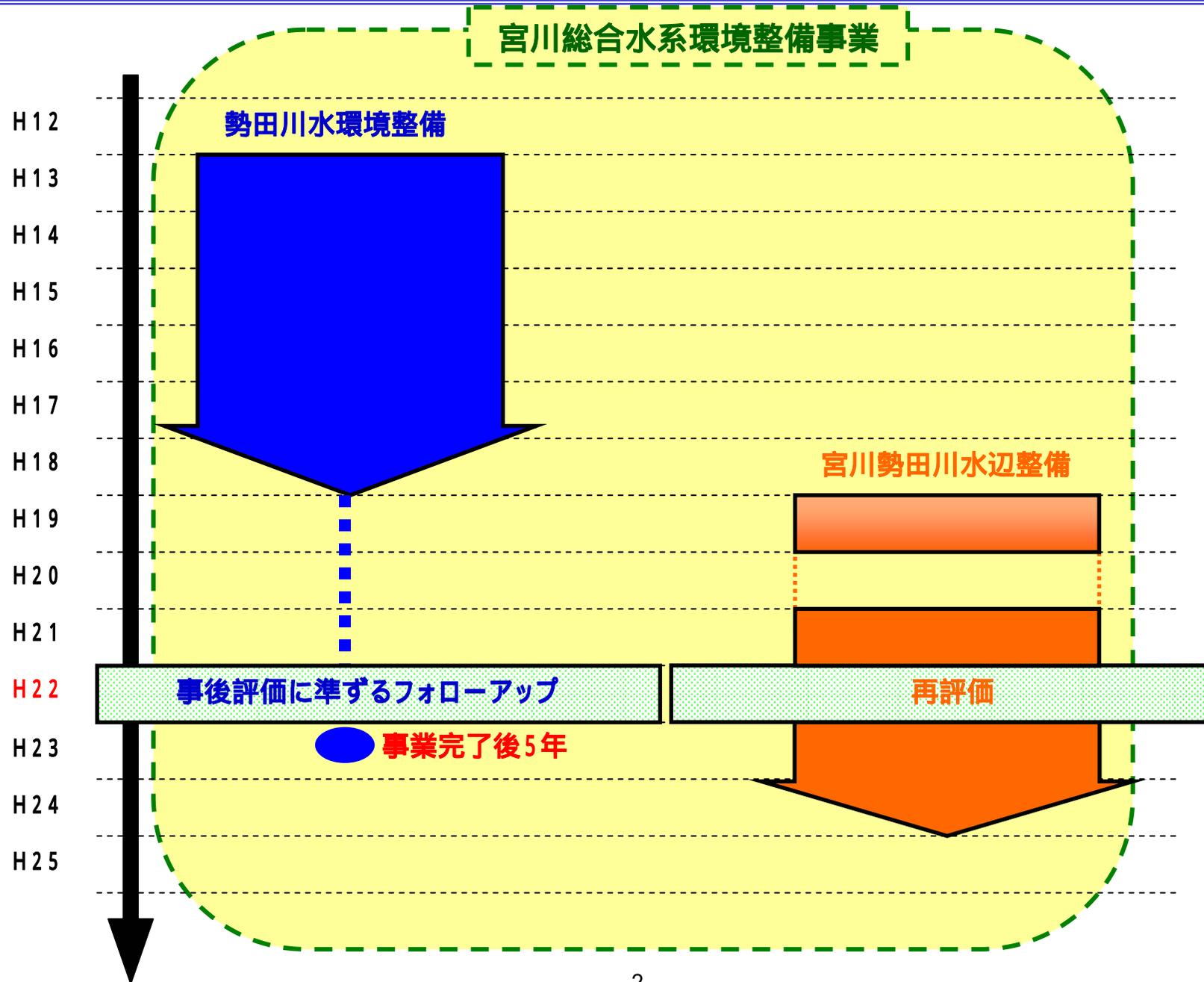


宮川流域図

宮川流域諸元

水源	たきぐんおおだいちょう ひでがだけ 三重県多気郡大台町の日出ヶ岳 (標高1,695m)
流域面積	920km ²
幹川流路延長	91km
国管理区間	11.6km (宮川)
	おみなとがわ 1.7km (大湊川)
	いすずがわ 3.2km (五十鈴川)
	せたがわ 6.1km (勢田川)
流域内市町村	1市5町 主要都市 伊勢市
流域内人口	約14万人
年平均降水量	約3,400mm超 (山間部) 約2,000~2,500mm (平野部)
水質 (BOD75%値)	わたらいばし < 0.5mg/l (H21宮川度会橋)
	せたがわ せたおおはし 3.5mg/l (H21勢田川勢田大橋)

(今回評価について)



2) 事業の目的

「宮川水系河川整備基本方針」における河川の利用・水質にかかる以下の記述をふまえ、「伊勢市都市マスタープラン」と連携を図りつつ空間整備や水質改善を行うものである。

- ・「流域の人々の生活の基盤や歴史、文化、風土を形成してきた宮川の恵みを生かしつつ、自然とのふれあい、伊勢神宮にまつわる歴史と文化を感じさせる空間としての河川整備と保全に努める」
- ・「環境基準を上回る勢田川においては、下水道等の関連事業や関係機関との連携・調整、地域住民との連帯を図りながら水質浄化対策を実施し、水質改善に努める」



宮川堤



伊勢河崎商人館



お木曳き



伊勢神宮奉納
全国花火大会



伊勢神宮(外宮)



伊勢神宮(内宮)



松井孫右衛門
人柱提



猿田彦神社



夫婦岩



3) 計画内容

整備箇所一覧表

事業名	実施箇所	目的	内容
宮川勢田川 水辺整備	川端地区	親水空間の形成を図る。	低水護岸整備 高水敷整正 緩傾斜堤防整備
	御園地区	上下流の公園と一体となった利用空間の形成を図る。	樹木伐開
	勢田川 地区	水辺に親しみ、歴史情緒溢れる町並みと一体となった河川利用を図る。	護岸整備
勢田川水環境 整備	勢田川1.4 ~5.6k	水質の改善を図る。	河道(底泥)掘削

御園地区水辺整備事業
(H24)



完成イメージ(フォトモンタージュ)



川端地区水辺整備事業 (H21~24)



完成イメージ
(フォトモンタージュ)



全体イメージ(パース)

勢田川水環境整備
事業 (H13~18)

勢田川地区水辺整備事業
(H21~22)



完成イメージ(フォトモンタージュ)



整備箇所位置図

2. 費用対効果分析

宮川勢田川水辺整備（再評価）

事業実施に要する総費用（C）は約12.5億円であり、この事業の実施によりもたらされる総便益（B）は約39.0億円となる。これをもとに算出される費用対便益比（B/C）は3.1となる。

勢田川水環境整備（事後評価に準ずるフォローアップ）

事業実施に要する総費用（C）は約15.0億円であり、この事業の実施によりもたらされる総便益（B）は約29.4億円となる。これをもとに算出される費用対便益比（B/C）は2.0となる。

		宮川勢田川水辺整備（再評価）	勢田川水環境整備 （事後評価に準ずるフォローアップ）	備 考
計算条件	評価時点	平成22年度	平成22年度	
	整備期間	平成19年度～平成24年度(6年)	平成13年度～平成18年度(6年)	
	評価対象期間	整備期間+50年間	整備期間+20年間	
	受益範囲	各事業箇所周辺5km圏(56,915世帯) 対象市町：伊勢市、玉城町、明和町、度会町	勢田川沿川5km圏(49,505世帯) 対象市町：伊勢市	
	CVMアンケート	インターネットによるアンケート調査を実施 配布数：1,332票、回収数：598票（回収率44.9%） 有効回答数：338票（有効回答率56.5%）	インターネットによるアンケート調査を実施 配布数：1,152票、回収数：511票（回収率0.4%） 有効回答数：296票（有効回答率57.9%）	
	支払い意志額 （WTP）	285円/世帯・月	311円/世帯・月	
B/C の 算 出	事業費	11.7億円	10.9億円	
	維持管理費	5.9百万円/年	-	事業費の0.5%
	総費用（C）	12.7億円	15.0億円	割引率4%で現在価値化
	年便益	1.95億円/年	1.85億円/年	WTP×世帯数×12ヶ月
	残存価値	2.8億円	-	
	総便益（B）	39.0億円	29.4億円	割引率4%で現在価値化
	B/C	3.1	2.0	$\frac{\text{総便益（便益+残存価値）}}{\text{総費用（事業費+維持管理費）}}$

(前回評価との比較)

事 項	水環境整備		
	前回評価	今回評価	主な変更理由
	H12新規採択時	H22事後評価に準ずる フォローアップ	
事業諸元	河道(底泥)掘削 5.5km	河道(底泥)掘削 4.2km	・事業区間の変更
事業期間	平成13年度着手予定	平成13～18年度	
総事業費	9.0億円	10.9億円	・実施事業費の反映
総費用 (C)	8.3億円 (現在価値)	15.0億円 (現在価値)	・実施事業費の反映 ・基準年の更新
総便益 (B)	13.5億円 (現在価値)	29.4億円 (現在価値)	
費用対効果 (B / C)	1.6	2.0	

3. 評価の視点

3.1 宮川勢田川水辺整備（再評価）

1) 事業の必要性等に関する視点

(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

宮川・勢田川流域における地域開発の状況及び歴史的背景

- ・宮川下流域では、近年は人口はほぼ横這い、土地利用は宅地面積が微増傾向であるが、大きな変化はみられない。
- ・宮川・勢田川は古くから伊勢神宮との歴史的・文化的つながりが強く、古い町並みの保存と併せて「川の駅」が整備されるなど、川と一体となったまちづくりが行われている。



宮川・勢田川周辺の利用施設

宮川桜づつみ



海の駅「神社」



宮川堤公園



川の駅「二軒茶屋」



勢田川舟運



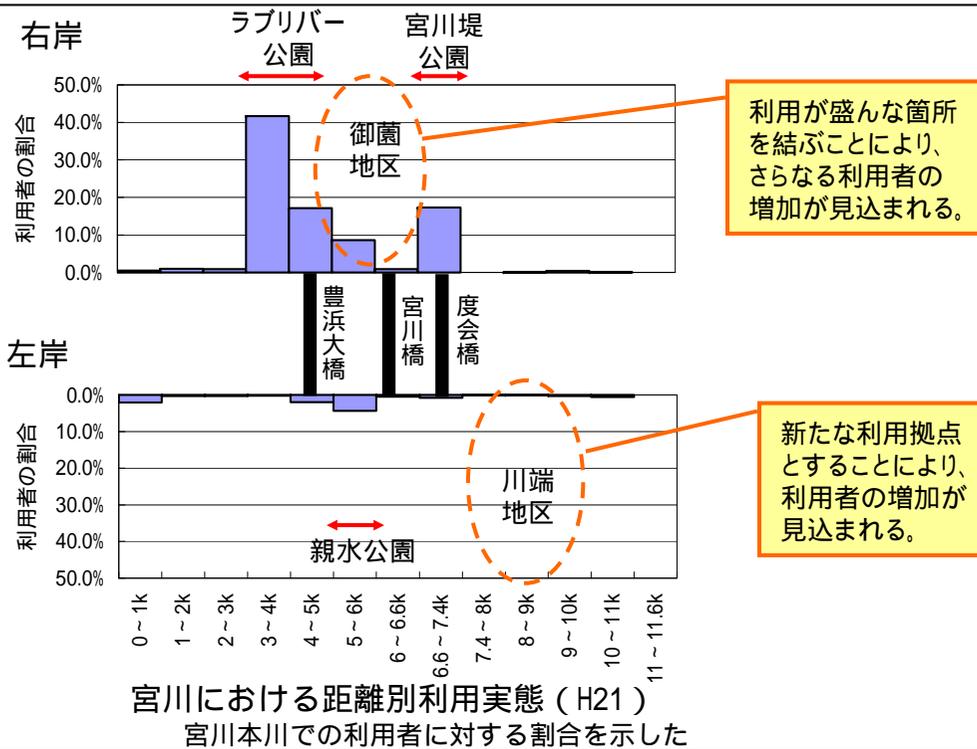
川の駅「河崎」



(2) 事業の投資効果

宮川・勢田川流域における河川の利用実態

- 宮川堤公園とラブリバー公園の利用者は宮川水系全体利用者の約76%を占め、最も利用が盛んである。
せたがわ
- 勢田川の利用者は宮川水系全体利用者の約15%を占め、宮川に次いで利用者が多い。
- 新たな整備を行うことにより、既設の利用拠点を活用した利用の活性化が図られ、さらなる利用者の増加が見込まれる。



宮川の利用状況

高水敷の利用状況



宮川ラブリバー公園



宮川堤公園

イベントでの利用状況

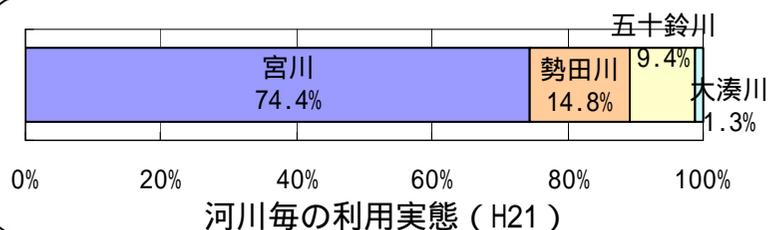


おばた
小俣まつりの舟みこし



伊勢神宮奉納全国花火大会

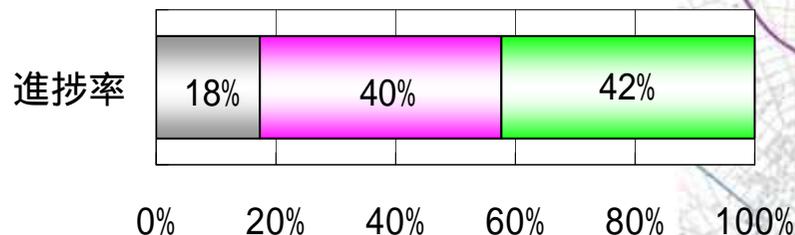
川と海のクリーン大作戦



勢田川は宮川に次いで利用者が多く、整備後はさらなる利用者の増加が見込まれる。

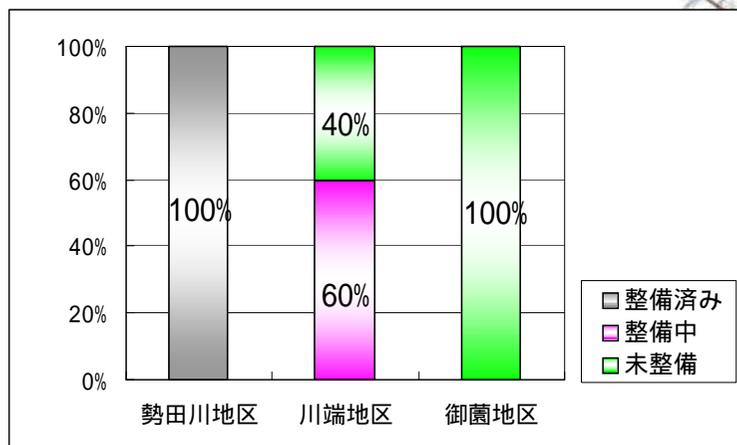
(3) 事業の進捗状況

・事業の進捗率は、事業費ベースで整備済みが約18%、整備中が約40%であり、概ね計画どおりの進捗である。

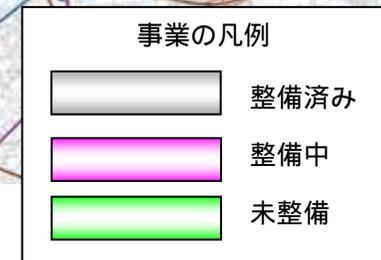
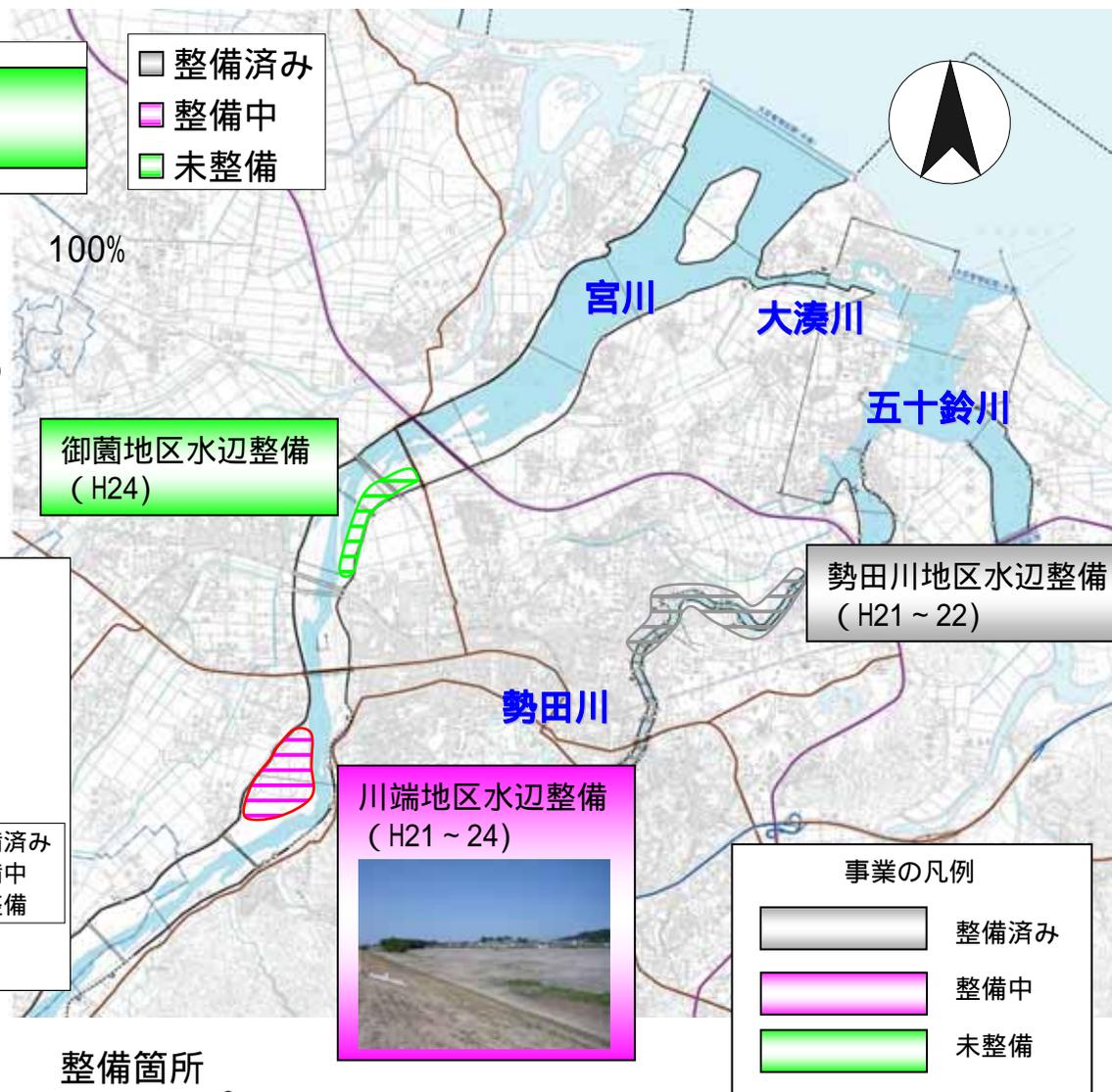


進捗率：H22年度末工事費ベース
(現時点で計画実施されている事業)

事業の進捗率



事業の進捗率 (箇所別)



2) 事業の進捗の見込みの視点

現在整備中の事業

かわばた

川端地区水辺整備

- ・平成21年度から事業に着手している。
- ・事業完了後、伊勢市により親水空間整備が実施される予定。

せたがわ

勢田川地区水辺整備

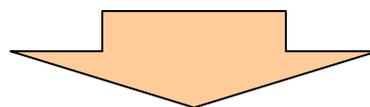
- ・平成21年度から事業に着手し、平成22年度に完了予定。

平成22年度以降の新規事業

みその

御園地区水辺整備

- ・平成24年度から事業に着手する予定である。
- ・事業完了後、伊勢市により親水空間整備が実施される予定。



上記事業について、地元自治体（伊勢市）との調整を行って順調に事業が進められており、今後、事業を進めるにあたって大きな支障はないと考える。

3) コスト縮減や代替案立案の可能性の視点

コスト縮減の可能性

みその

- ・ 御園地区の樹木伐開により発生する樹木は、一般への無料配布により処分費の削減を図っていく。



伐開樹木による配布事例（他河川の事例）

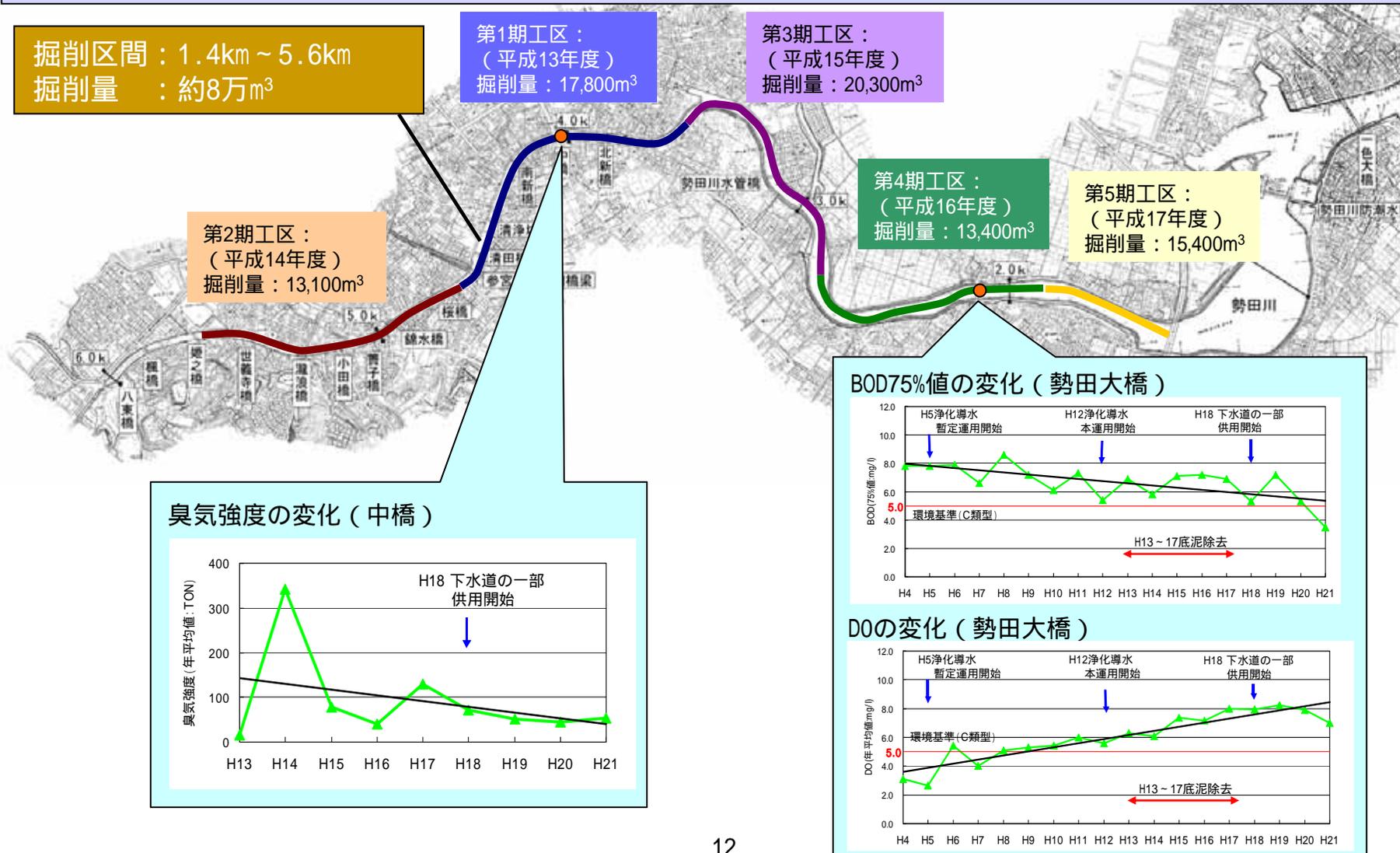


チップ化による配布事例（他河川の事例）

3.2 勢田川水環境整備（事後評価に準ずるフォローアップ）

1) 事業の効果の発現状況

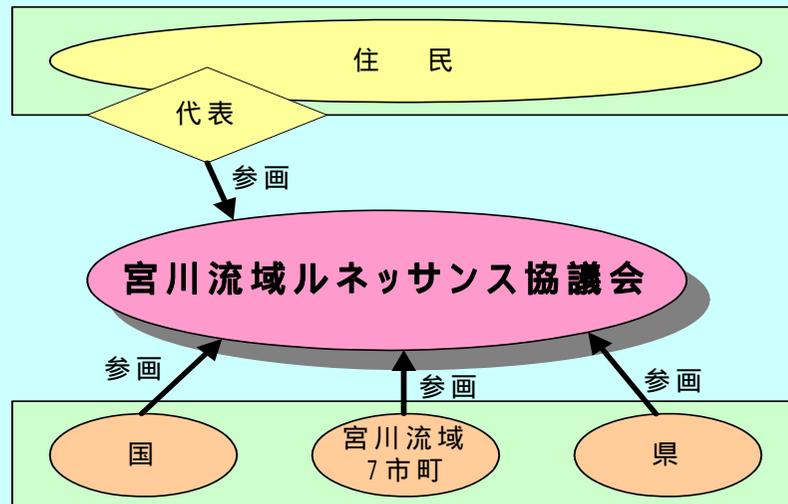
- 生活環境項目であるBOD75%値やDOは環境基準を満足するようになってきている。
- その他の項目では、臭気強度は事業実施後、改善傾向にある。
水質の改善効果は、浄化導水、下水道整備の効果も見込まれる。



2) 社会経済情勢等の変化

- 宮川流域では、総合行政、流域圏づくりのモデル事業として「宮川流域ルネッサンス事業」を平成9年度より開始し、平成12年度には流域市町や三重県、国、住民などにより、「宮川流域ルネッサンス協議会」を設立し、勢田川七夕大掃除など様々な取り組みを実施している。
- 勢田川では、水質改善のため、平成15年より「勢田川をきれいにプロジェクト(SKiP)」により、地域一体となった取り組みを開始した。また、平成20年には、住民と行政が一体となって方針を決定する機関として、「伊勢市水環境連絡調整会議」へ発展し、地域一体となった活動が拡大している。

宮川流域ルネッサンス協議会の組織図



勢田川七夕大掃除



勢田川七夕エコ
キャンドルナイト

勢田川をきれいにプロジェクト (SKiP) の活動



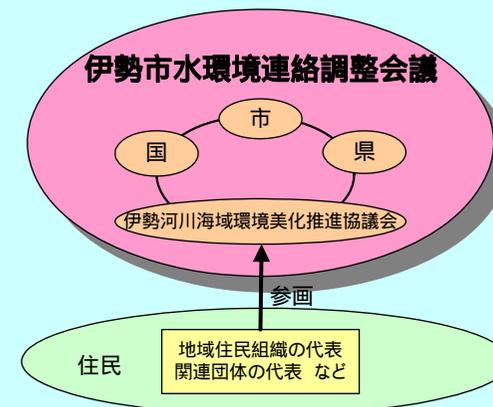
水質チェックの状況



地域住民によるおりゃん瀬
設置作業の状況

平成20年に発展

伊勢市水環境連絡調整会議の組織図



3) 今後の事業評価の必要性

- ・事業効果の発現状況等から、現時点では再度の事後評価の必要性はないと考える。

4) 改善措置の必要性

- ・現時点では、事後評価制度に基づく改善措置の必要性はない
- ・その他、流域が抱える課題（下水道整備等）を解決していくことが必要である。そのため、水環境改善には、関係機関との連携や流域住民への啓発、活動への参画などを行っていくことが重要である。

5) 同種事業の計画・調査のあり方及び事業評価手法の見直しの必要性

- ・当該事業の事業評価手法は妥当と考え、現時点での見直しの必要性は無いと考える。

4 . 県への意見聴取結果

宮川勢田川水辺整備（再評価）

伊勢市の整備と一体となった基盤整備を引き続き行っていただきますようお願いいたします。

勢田川水環境整備（事後評価に準ずるフォローアップ）

事業実施の結果、勢田川の水質が向上し事業効果が認められることから、特に意見はありません。

5 . 対応方針（原案）

宮川勢田川水辺整備

- ・本事業は、宮川と勢田川を中心とした一大交流拠点の創出を図るための支援を行うものであり、今後、効果の発現が見込めること、沿川自治体からも整備の要望が高いことから、引き続き事業の継続が妥当であると考えます。

勢田川水環境整備

- ・整備により当初目的とした効果は達成している。
- ・今後さらに水質改善を図るためには、関係機関との連携による下水道整備等の流域対策や、地域住民への啓発などによる地域一体となった水質保全活動を進めていくことが必要である。

以上のことから引き続き宮川総合水系環境整備事業を継続する。